

伊豆大島の噴火警戒レベル

— 火山災害から身を守るために —

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル5は「避難」、レベル4は「高齢者等避難」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」）。
- 対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。



■伊豆大島 噴火警戒レベルに則した防災対応

●噴火警戒レベルに応じて下記のような防災対応が必要になります。

レベル5（避難）：
危険な居住地域からの避難等が必要

レベル4（高齢者等避難）：
警戒が必要な居住地域での高齢者等の避難行動要支援者の避難、住民の避難の準備等が必要

レベル3（入山規制）：
②カルデラ内およびカルデラ縁から外側の約1kmまでの範囲への立入規制
①カルデラ内および山頂火口から約2kmまでの範囲への立入規制

レベル2（火口周辺規制）：
山頂火口から約1kmまでの範囲への立入規制

レベル1（活火山であることに留意）：
山頂火口から約600mまでの範囲への立入規制（ただし、平常時は遊歩道および展望台周辺を除く）

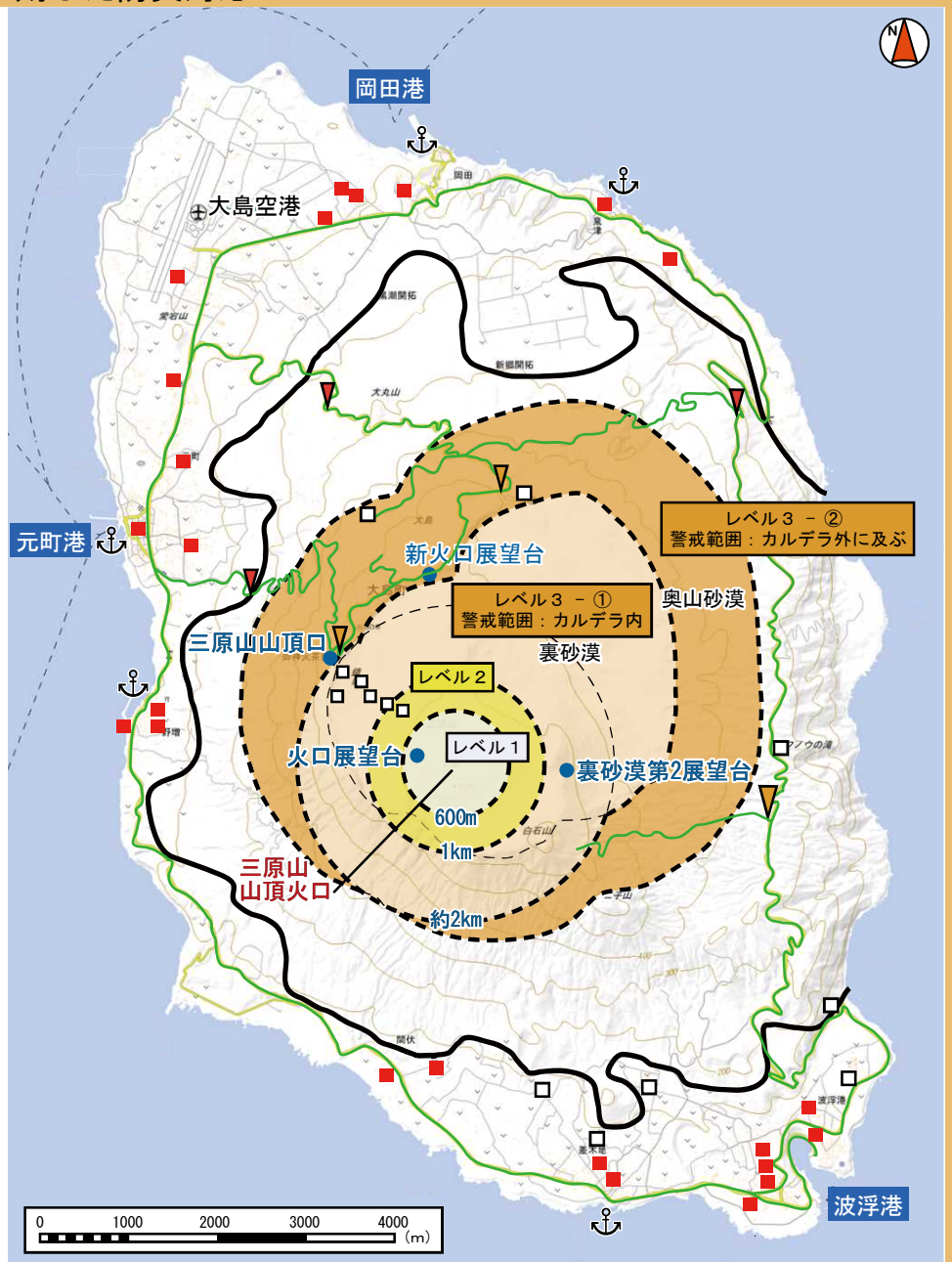
▼：レベル3の主な規制位置（警戒が必要な範囲が②の場合）

▼：レベル3の主な規制位置（警戒が必要な範囲が①の場合）

■図は、伊豆大島火山避難計画を基に、地元自治体等と調整して作成したものです。
各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等に定められています。
詳しくは、大島町にお問い合わせください。

図の凡例

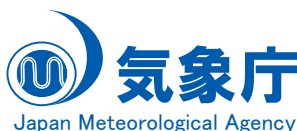
- ：居住地域の境界
- ：主な道路
- ：避難所
- ：避難壕
- ：避難港
- ⚓：漁港



この地図は、国土地理院の『地理院地図』を使用して作成しています。



本冊子は、植物油インクを使用しています。



問い合わせ先

気象庁地震火山部火山監視課 火山監視・警報センター

TEL：03-6758-3900（内線5189）<https://www.jma.go.jp/>

■東京管区气象台 業務課 TEL：042-497-7198

<https://www.data.jma.go.jp/tokyo/>

■伊豆大島火山防災連絡事務所 TEL：04992-2-1166

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/rovdm/Izu-Oshima_rovdm/Izu-Oshima_rovdm.html



伊豆大島の噴火警戒レベル

種別	名称	対象範囲	噴火警戒レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別 警報	噴火警報(居住地域)または噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ●溶岩流が居住地域に接近。 安永大噴火(1778年)の事例 11月14または15日：北東海岸に達する溶岩流下 ●カルデラ外で噴火が発生し、居住地域に重大な被害が切迫している。 1986年噴火の事例 11月21日17時47分頃：C火口列噴火開始 ●居住地域に近い場所での噴火の可能性。 1986年噴火の事例 11月21日19時頃以降：島南東部で地震多発 同日22時頃：島南東部で亀裂 ●大規模噴火の発生。 過去事例 約1700年前のカルデラ形成噴火、安永大噴火 など
			4 (高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の避難行動要支援者の避難、住民の避難の準備等が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ●カルデラ外へ溶岩が流下し、居住地域に到達する可能性が高まる。 安永大噴火(1778年)の事例 11月6日：間伏方面へ溶岩流下 ●カルデラ内で割れ目噴火が開始し、噴火がカルデラ外に拡大する可能性がある。 1986年噴火の事例 11月21日16時15分頃：B火口列噴火開始 ●カルデラ外の居住地域から遠い場所での噴火の可能性。 ●大規模噴火の発生もしくはその可能性。 1986年噴火の事例 11月21日：割れ目噴火により噴煙が海拔1万m以上に上昇
警報	噴火警報(火口周辺)または火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	登山禁止、入山規制等危険な地域への立入規制等。 状況に応じて高齢者等の避難行動要支援者の避難の準備等が必要。 住民は通常の生活。	<ul style="list-style-type: none"> ●外輪山付近～カルデラ内で浅い地震が多発し、大きな噴石や溶岩流がカルデラ内や外輪山周辺に到達するような噴火の発生もしくはその可能性が予想される。 1986年噴火の事例 11月21日14時頃：カルデラ北部で地震多発 ●カルデラ外に流出した溶岩が居住地域のない方向に流下。 ●カルデラ内に流下した溶岩が火口から概ね1kmの範囲を超す、もしくは大きな噴石が頻りに火口から概ね1kmの範囲を超す。 1950～1951年噴火の事例 1951年：カルデラ底北西縁にまで溶岩原を形成 ●影響がカルデラ内にとどまるカルデラ内の噴火(三原山は除く)。
			2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	火口周辺への立入規制等。 住民は通常の生活。	<ul style="list-style-type: none"> ●三原山山頂火口で小規模の噴火が予想される。 1986年9月：微動の振幅増大 同年10月下旬：火山性微動の連続化 同年11月12日：中央火口内に新噴気出現 1987年11月13日：三原山直下で地震多発 等 ●三原山山頂火口から噴火が発生し、概ね1km以内に大きな噴石飛散。 1986～1990年噴火の事例 1986年11月15日～12月、1987年11月、1988年1月、1990年10月の三原山の噴火
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立入規制等。	<ul style="list-style-type: none"> ●火山活動は静穏、状況により中央火口から三原山山頂火口一周遊歩道に影響がない程度の噴出の可能性あり。

注) ここでいう「大きな噴石」とは、主として風の影響を受けずに弾道を描いて飛散する大きさのものとする。

※各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められています。
詳しくは、大島町にお問合せください。

■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。 <https://www.jma.go.jp/>